

8月20日(日)



1パック 通常 ~~980~~円

780円 (税込)

トロ口

ながずくじら



西田鮮魚店

72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

益前に行かせて頂いた娘の全国大会。やはり中々経験できない雰囲気。言葉にするのも難しい熱気と興奮。1勝を目標に1年間頑張ってきました。しかしそんな甘くなく、悔しさ残る結果になりました。沢山のお客様から声をかけて頂きありがとうございました！

さてお盆ですが久々に帰省される方も多かったと思います。何年ぶりなんよ〜って嬉しそうに話されている姿を見ると、こちらまで嬉しい気持ちになりました。やっぱり益前はこうでないと！お盆も明けて、先日の台風や、海水温の高さの影響で魚がいない状況で広告を考えている祐宗。広告締切木曜日14時。現在時計を見れば木曜日13時…後1時待つて、笑

そんな中、今密かに人気のトロクジラが目飛びこんできました。脂があり、生姜醤油との相性抜群。一度食べるともう虜！今回トロクジラの醤油はあえて甘ダレの寿司醤油を付けております。これは最高の相性！間違いない！！

通常980円を780円のお買い得で販売致します。クジラ好きになるの間違いなし！

スタッフ一同、ご来店をお待ちしております。

西田鮮魚店 店長 祐宗 優司

『県大生にスポットライトをもう一度』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



吉川先生から手紙をいただいた。

県立大学が創設されて5年目、やっと学生のクラブ活動も軌道に乗って来た頃、軟式野球部が広島六大学リーグで優勝して、豊田市の全国大会に出場することになりました。県立大学初めての全国大会出場でしたが、支援も限られた中、あちこちから協力いただいたことを覚えておられます。

徳島池田高出身のGという学生が主将でしたが、当時のアルバイト先の西田社長が遠征費の足しにと祝い金をくださったと私に報告してくれたのを覚えています。ありがとうございます。

県立大学の学生のためには、今年、亡くなった伍楽荘の塚本さんも、普段からアルバイトの学生たちに食事など細やかな力添えをいただきました。田畑をアルバイトに替えて提供いただいた市民の皆さんも多いと思います。私などが知らないところで、たくさん市民のみなさんから多大なお力添えをいただいで県立大学は庄原で存続できたと思います。



そうだった。1989年、広島県立大学が七塚にできたとき、庄原は湧いた。その6年後の1995年国営備北丘陵公園が開園。庄原が垣間見たバラ色の未来。なにかが変わる、そんな空気が町にあった。一瞬ではあったが、確かにあった。

一期生200名の若者が庄原に来た。それも今まで無縁だった『大学生』という名の若者が。珍しかった。いたるところで歓迎会が開かれた。毎日毎晩。もはや、彼らはスターだった。

真新しいアパートがいたるところに建てられた。朝のバス停に並ぶ大学生。それだけで町が生き返った。

あの年、私は37才。三次に『すし家族一号店』を出店した年だ。ジョイフルは10年目に入り、新興ビルの『太郎と花子の花車』という居酒屋も6年目に入っていた。

それまでの店のアルバイトは高校生。それが、県大ができてから、大学生の子たちが働くようになった。さすがに、高校生と大学生では違う。とくに居酒屋では、高校生は使いにくかった。

私にとっての広島県立大学は、アルバイトの宝庫とでもいおうか。スタッフの心配をしなくてもよくなった。なににより、まじめだ。頭もいい。機転がきく。彼らの存在は、大きかった。

あの県大フイバーから30年以上経つが彼らのありがたさは変わらない。今も『西田鮮魚店』では男子7名、女子4名の子たちがアルバイトをしてくれている。彼らなくして店は回らない。

この盆もレジを待つお客様の列ができていた。女の子が一人でレジを打っている。間に合わない。聞くと、アルバイトの子が集まらなかつたとか。庄原でもアルバイト争奪戦が起きていて、なんでも、コンビニやドラッグストアに負けているらしい。たいへんだ。

それはともかく、そういう意味でも大学生の存在はありがたい。たとえそうでなくとも、町にこれらの姿があるだけでも町に活力が生まれる。

『備北政経倶楽部秀英会』という小林県議を中心に庄原の町づくりを考えようという会がある。シンセイアートの塩本

会長が会長を務めるだけあって、いたってまじめな勉強会だ。彼らと同級生ということの数に入れてもらっている。こういう会は苦手な私だが、庄原の市街地の活性化がテーマだということでも出席した。話を聞いて、なるほどな、と思った。簡単に言うと県大生を市街地に……。ということだ。

県大の学生は、大学院生をいれると約650人。そんなにいるんだと驚いた。(庄原にいる19〜22才の若者は1000人だそうだ。) そんなにたくさんいる彼らが行動する場所は、七塚から本町に移した方が、彼らにとっても、町にとってもいんじゃないか、ということ。

なんでも、大学のキャンパスも古くなり、学生数が減り、使われなくなった施設もあり、維持するのが難しくなっているそう。改修には何億円もかかるらしい。来春には、学生寮の閉鎖が決まっているのだとか。聞くと、寮費は年間12000円くらいと激安なのだが、共同浴場、共同便所で食堂があるとはいえキッチンもない。今の時代、さすがに、これは……。ジョイフルもそうだが、県大も出直す時が来たということだ。広大法学部だって東広島から広島に再移転する。日本中がそういう時代の巡り合わせにある。庄原だって……。

8月14日。ジョイフルの本部に近藤君という県大の2年生が訪ねてきた。五島市議と国利市議が一緒だ。近藤君は愛知県出身。

用件は県大の仲間と一緒に『無料塾』なるものをやりたいということ。『無料塾』とは、環境的に学習塾に行けないような子供たちに県大の学生たちがボランティアで勉強を教える場。勉強だけでなく、よろず相談にものりたいのだとも。ついでに、ジョイフルでその場所を貸してくれないか、ということだった。『子ども食堂』みたいなもの？と訊く私に、「うーん、まあ」と応えてくれた。八王子で始まったその無料塾は『つばめ塾』という名で愛知県でも彼の友人たちが広めているそう。ジョイフルの理事会で思いの丈をプレゼンしてくれるように頼んだが、いまどきの若者は志が高い。要望に応えていきたいと思う。

吉川先生の手紙の続き。

野球部は全国大会初戦で慶応義塾大学に大善戦で敗れました。現在GはLIXILに、副将Tは積水化学です。EーS Tは京セラで、他の卒業生たちも第一線で力一杯、仕事に励んでいるようです。



庄原で大学生活を送った若者たちが、全国で活躍している。そのことだけでも素晴らしいこと。

ぜひ、令和の広島県立大学庄原キャンパスに学ぶ子たちを応援したい。



つばめは育った巣へ帰ってくる
つばめ塾で学んだ子どもたちが
いつの日かつばめ塾に帰り
次の時代のことも私たちを育ててくれれば……
そんな思いをこめて……つばめ塾

2023年8月20日